

# 男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会

(平成 25 年度第 2 回)

## 議 事 録

2013 年 9 月 12 日 (火) 開催

時 間	15:00～17:00	場 所	地盤工学会会議室		
工 藤 委 員 長	○	亀 村 オフ「サ」ーハ「ー	○	浅 田 委 員	×
山 口 委 員	×	野 崎 委 員	○	西 岡 委 員	○
小 林 委 員	○	田 中 委 員	○	山 下 委 員	○
熊 野 委 員	○	渡 邊 オフ「サ」ーハ「ー	○		

○：出席 ×：欠席 △：未定

議事録担当者：野崎委員

### 【前回議事録の確認】

【別紙 - 1】 pp. 1-2

- ・承認された。

### 【議 題】

#### 【報告事項】

#### 1. 会員・支部部の動き (工藤委員長)

【別紙 - 2】 pp. 2-4

会員支部部には以下のように報告したとのこと。

- ・シニア WG のアンケート結果を解析し、今後の方策を詰める予定。
- ・若手対応として、支部若手交流会と連携した活動を検討する予定。
- ・技術普及委員会ではシニア会員を講師とした講習会を検討しているため、ダイバーシティ委員会では講習会以外の企画を検討する予定。

#### 2. 男女共同参画学協会連絡会関連報告 (工藤委員長)

【別紙 - 3】 pp. 5-29

- ・第 3 回大規模アンケートの結果は 9 月中にホームページにアップされるとのこと。JGS 分のアンケート結果の解析、利用方法の検討は次回委員会で行う。
- ・WG 活動報告として、2013 女子中高生夏の学校の実施報告があった。
- ・連絡会メーリングリストは現在 3 名登録している (工藤、山口、田中)。他に登録希望者がいれば 9/24 (火) までに田中委員に連絡する。
- ・連絡会シンポジウム 10/7 (月) には 1~2 名参加を予定している。参加希望者は田中委員に連絡する。(参加者は写真撮影及び簡単な参加メモの作成を行う)

#### 3. 土木学会ダイバーシティ推進委員会動向 (工藤委員長)

【別紙 - 4】 p. 30

- ・「継続は力なり」の販売実績は、9 月 2 日現在 1,056 冊。
- ・清文社が 2014 年 8 月に書籍「土木女子」を発行予定とのこと。チラシには協力：土木学会となっているが、土木学会ダイバーシティ推進小委員会には話が通っていないとのこと。内容は写真・インタビュー集であり、対象は一般向けとみられる。「継続は力なり」と重複する恐れもあり、また、「女性技術職を正しく伝える書籍なのか」などの不安材料もあるため、土木学会より情報が入り次第、当委員会内で共有する。
- ・Lunch Cafe D.D. の参加者は 15 名ほどであった。当委員会の山口委員も参加したとのこと。

#### 4. 富山大会特別セッション開催報告 (田中委員、浅田委員)

【別紙 - 5】 pp. 31-34

- ・参加総数は 44 名、19 名のアンケート結果によると男女比は 50 : 50 程度。発表の中では、特に高島さんの話題が興味を引いたようである。
- ・次回案として、「特別セッションの枠内で討議時間を設ける」、「サロンをあとに持って行きセッションの発表内容について討議する」などの意見もあった。どちらにしろ、本音が語れる雰囲気を作る。

5. 富山大会サロン・土・カフェW開催報告(小林委員、山口委員) 【別紙 - 6】 pp. 35-36
- ・参加総数は35名。23名のアンケート結果のうち初めての参加者は17名で、ほぼ全員の回答者から「また参加したい」との回答を得た。また、20分を短いと感じる意見もあった。
  - ・今回はあえてテーマを設けなかったが、次回は様々の立場の参加者が共通の話題で盛り上がるきっかけとなるようテーマを設けることも検討する。テーマはいくつか設定し、学生向けのテーマも入れて参加を促進する。
  - ・ダイバーシティ委員会の名称変更については、「ダイバーシティ」は残して副名称を付ける方向で検討する。
6. 託児所開設報告(工藤委員長) 【別紙-7】 p. 37
- ・託児所についてはさらに宣伝し、利用者の増加を図る。
  - ・学会誌12月号に、託児所利用報告を掲載予定(執筆者：田代むつみ氏)
7. 2013年度夏の学校参加報告(山下委員、野崎委員) 【別紙 - 8】 pp. 38-48
- ・参加人数は中高生129名、保護者教員40名だった。地盤工学会は8/9のポスター展示に参加し、人気投票の結果、34出展団体のうち3位を獲得した。
  - ・来年度の参加に向けた意見は以下のとおり。
    - ▶ 新規作成した「専門分野と職業に関するポップ」は、「見てもらう」ために多少改良の余地がある。
    - ▶ 配布資料等は数量を増やしても良いのではないかと。また、フェイスブック等で事前に宣伝を行ってはどうか。
    - ▶ 各自の進路に関する具体的な質問も多く、「どのように勉強して今になったか」等、話をしたグループほど好印象を持ってくれたようである。実験で呼び込んだあとは、進路相談をメインにしてはどうか。話をする流れを作る。

#### 【審議事項】

1. シニアWGの進捗と今後の方針、計画について(亀村オブザーバー、野崎委員) 【別紙 - 9】 pp. 49-62
- ・シニア世代の学会活動参画促進のため、アンケートで意見把握を行った。
  - ・自分の専門分野であり仕事に役立っているが、辞める理由としては「会費に見合ったものではない」とする意見が多い。
  - ・委員会活動、発表会・講演会の参加等、参加者はその内容についてほぼ満足している。
  - ・今後、何らかの形(ボランティア等)で活動に参加したいと思っている人が多い。
  - ・この結果をどう生かすかは、シニアWGでは今のところノーアイデア。
  - ・ダイバーシティ委員から、ボランティア活動については以下のような意見があった。その他、活発に意見があがったため、これらの意見を基に別途企画書を作成する。(担当：野崎)
    - ▶ ボランティア募集などの掲示と、閲覧したシニアがエントリーできるような仕組みを作ってはどうか。
    - ▶ シニア層が活躍できるようなボランティアの場を、支部活動のなかに作る必要があるのではないかと。
    - ▶ ボランティアとしての活動状況により、学会費減免などのインセンティブを付与してはどうか。
2. 若手活躍関係の進捗と今後の方針、計画について(西岡委員) 【別紙 - 10】 pp. 63-79
- ・若手座談会では時期的なこともあり、学校関係者の参加がなかった。まずは学校関係者からの情報収集のため、西岡委員が第34回地盤工学若手セミナーに参加すること。また、今年度は学校関係の若手会員を中心とした座談会を行う。繁忙期を避け、5月開催で調整を進める。
  - ・今後の方策について、委員から出た意見は以下のとおり。
    - ▶ 若手会員には学校関係者が多い。学会活動の中で、負荷がかかっている人の意見を吸い上

げる必要がある。特に若手セミナーは恒常的に継続するのが難しい。若手セミナーの幹事にコンスタントにダイバーシティ委員会に出席してもらい、情報交換してはどうか。

- ▶ 学生会員は社会人になり職種が変わった時点でやめる人が多い。学生と若手会員を繋げる場を作る必要がある。会費が高くなるとやめる人も多いが、むやみに減額することはないのではないか。
- ▶ 年会費に見合ったサービスをする必要がある。「会員だとお得」なことがわかるようなサービス・表記を行う。(例;会費のうち何にいくら使われているかを「見える化」する、など)

### 3. 女性活躍関係の進捗と今後の方針、計画について

- 2012年度男女共同参画学協会連絡会・大規模アンケート結果のうち、地盤工学会会員の自由記述意見をみると、以下のような偏見や差別、無理解な意見が目立つ。
    - ✓ 社会全体の動向としては賛成だが、自分の職場では女性教員の積極採用は反対
    - ✓ 数字あわせのために無理やり女性を学会の委員に登用したりなど本末転倒
    - ✓ 専業主婦を手厚く保護すべきで男女共同参画は未来にとって不幸せ。子供がいる共働きを保護すべきでない
    - ✓ 女子を優遇するのは逆差別
    - ✓ 女性は途中退社が多いから結果的に少なくなる。このような取り組みは無意味
- ポジティブアクションは差別にあった女性の立場を正常に戻すためのものであり、逆差別という認識は間違いである。そういう意識や女性活躍の重要性が未だ地盤工学会内に浸透していない。シニア層、若手層の活躍のための検討も重要だが、女性活躍についての検討も引き続き重要課題として取り組む。具体策は次回委員会で検討する。

### 4. その他

- オブザーバー参加の渡邊氏より、21世紀の地盤環境研究委員会が企画する出前授業「女子高サイエンススクール」について情報提供があった。希望者は出席可能と思われるため、詳細について、後日渡邊委員から連絡を入れてもらう。

### 5. 次回開催日の確認：12月10日（火）15：00～17：00